

令和 2 年度（第 1 回） ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会
議事要旨

1. 開催日時 令和 2 年 11 月 13 日（金） 13：40～16：15
2. 開催場所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 田町 4 階 B・C ホール
3. 出席者
委員：永田委員長、伊規須委員、川本委員、酒井委員、高岡委員、益永委員、
宮田委員、森田委員、若松委員、岡田委員（web 参加）
オブザーバー：環境省、厚労省、経済産業省、総務省、北九州市、愛知県、豊田市、
東京都、大阪市、室蘭市、北海道（web 参加）、（公財）産業廃棄物処理
事業振興財団
4. 議題（公開）
＜主なご意見＞
 - (1) 処理完了に向けた JESCO の取組について
 - 円グラフの「保管者と連絡が取れない（不存在）」について、行政代執行の可
能性も含め、内訳を整理して示すこと。
 - (2) 各部会の取組状況について
特になし。
 - (3) 各 PCB 処理事業の進捗状況について
 - 排出源モニタリングにある北九州と北海道の水銀は、粒状活性炭の処理が原
因の可能性があるということだが、（管理目標値の） $50 \mu\text{g}/\text{N m}^3$ を超えないよ
う注意が必要である。
 - 東京事業所での排水中ダイオキシン類濃度の基準超過に関してはトラブルを
調査・分析し、対策を実施済みである。
 - 作業員の血中 PCB 濃度のデータは貴重である。勤続年数を加えた分析など、
踏み込んで解析してもらいたい。
 - 血中 PCB 濃度は脂質成分により上昇するため、その点を考慮した解析が必要
である。また、対応策の効果等の把握のためにも PCB 濃度の高かった作業員
の追跡調査を実施すること。PCB とダイオキシン類の作業環境の管理値のバ
ランスが取れていないため、それを考慮して考察してもらいたい。
 - 北九州の 2 期施設(安定器やその他汚染物等の処理)では、作業環境における換

気の下降気流速度を高めることによってダイオキシン類濃度が抑制できている。北海道事業所の増設施設にも同じことが言える。

(4) 長期的な処理の見通しについて

- 処分期間は計画的処理完了期限の 1 年前だが、北海道のコンデンサの処理計画は昨年度末時点で（計画的処理完了期限の）令和 4 年度にも掛かっている。今後、地元行政と協議し、事業部会や円卓会議にも諮り、検討すること。

(5) JESCO 施設における「長期保全計画」の取組み状況について

特になし。

(6) 処理困難物の処理方法について

- 個々に状況が異なるため、その対処には困難があったか、うまく対応したと評価する。現場確認時に低濃度判定を行うなど、コンサルティングの役割も果たしている。
- 周辺環境の保全及び作業の安全の面でも素晴らしい成果になっている。体制や技術などを整理して報告書としてまとめ、国内の学会だけでなく、国外でも発表してほしい。

(7) 北九州 PCB 処理事業所第 1 期施設の解体撤去の状況について

- 北九州以外の事業所についても、解体撤去の見通しを早めに計画すること。
- 通常操業に影響が生じない限りにおいて、プラント操業時にホットスポットにできるだけ対処することは解体撤去時の負荷を下げることに繋がる。
- 解体撤去マニュアルについて、先行工事の進展に合わせて改訂作業の準備を進めること。

5. 全体を通しての意見

事故やトラブルが続いているので、事故・トラブルの規定を各事業所で再度確認・報告し、情報共有を図ること。また、こうした状況を内部監査等でチェックし、事業として更なる成長を目指すこと。

6. 事務局からの連絡事項

次回の委員会の日程は委員長と相談の上、改めて連絡する。

本日の議事要旨は委員の確認後、ホームページに公開する。